

2024年3月

令和5年度活動レポート



はじめに

2023年4月より一般社団法人BlessU（ブレスユー）は、（公財）共生地域創造財団から独立し、東日本大震災ならびに台風19号被災者への生活再建伴走支援と、高齢者やひとり親をはじめとする方々への新しい仕事づくりを行っています。わたしたちは、小さな課題にしっかりと目を向け、「一度会ったらお友達」を合言葉に、柔軟な発想で人と人とをつなぐ、接着剤のような役割を担っています。また「ながく住める山田町の創造」を目標に、また、個人の潜在能力を活かし、その人らしさを見つけ、それぞれが主体的・かつ双方に支え合える仕組みを構築しています。

本事業の背景・目的

わたしたちは東日本大震災ならびに2019年台風19号発災時より、被災者された方々への生活再建支援やコミュニティ支援など、「個別支援」と「地域・社会参加支援」の両面を同時に行ってきました。山田町においては、とくにも東日本大震災をきっかけに若者の人口流出に拍車がかかり、高齢者を見守る担い手が不足しているように感じています。人口流出や少子高齢化が加速する一方で、町の貴重なマンパワーとして高齢者とひとり親家庭（主にシングルマザー）がいます。いずれも山田町に住み続け、町外に流出する可能性は極めて低いことから、地域のマンパワーである子育て世代と被災地域の高齢者が出逢い、関り、双方の課題を補い合うことにより、新たなコミュニティの仕組みが確立し、双方で孤立を防ぐ効果（役割）が生まれると考えています。また、生活課題を抱える方々の孤立を防ぎ、それぞれが役割をもつ（相互多重型支援）ことで、自尊感情や自己有用感を取り戻し、心身のケアと前向きに生活することに結びつきます。そのため、わたしたちは単発的かつ一時的なイベント開催による交流を目的とせず、孤立等の根本的な課題解消に向け、主として「日常で関わりあえる機会」を創出するとともに、コミュニティの拠点として船越地区の農地を活用し、農業を通じた新たな相互多重な支援の仕組みづくりを目的としています。

本事業の効果・特徴

本事業は主として、高齢者やひとり親家庭の社会的孤立を防ぐことを目的とし、農園を拠点とした地域における社会参加の機会創出と、双方の役割の取り戻しと拠点づくりを行います。高齢者の役割は農作業だけではなく、農園に集まる子どもたちの見守り・ママの相談役などを担います。同時にひとり親の役割として、高齢者の孤立や課題（買い物困難や話し相手の不足など）に対し課題解消・軽減を目指す、高齢者の見守りを担います。この支えあいの仕組みは、伴走型支援における「家族機能」を地域で行うだけにとどまらず、どちらかの支援が一方通行にならず、互いに支えあう「相互多重型支援」の仕組みです。それぞれが役割を取り戻し、活躍できる場をつくるのが、度重なる自然災害で疲弊した方々や、これからの山田町を担う方々の自尊心や自己有用感を高め、イキイキと暮らす活力となります。農園の取り組みは一時的かつ単発なイベントではなく、常時作業を行う「いつ来ても誰かがいる交流拠点」となり、日常的な役割の相乗効果に期待できます。誰もが役割を見出し、活力に富んだ生活を送れる社会の実現に寄与し、復興をこえた、より良い山田町を創造していきます。

活動「コミュニティ農園における役割創出、孤立防止活動」

船越地区の農園において、野菜やコットン、ハマナス等を栽培し、主に高齢者や子育て世代の交流の拠点としました。高齢者やシングルマザーなど、支援を必要とする人たちが互いを補い、サポートすることにより、社会制度に頼らない自立的で活力に満ちた生活を送れるよう、相互多重的支援を目的とした取り組みを実施しました。

また、山田町のシンボル「自生のハマナス」は、東日本大震災の影響で貴重な存在となっていることから、震災の風化を防ぐためだけではなく、新たな町の景色としてハマナスを栽培しています。ハマナスが育ったのちには、町内にハマナスを植樹し、復興のシンボルとして山田町を象徴する景色となることを目指します。加えて新たな特産品となることを目標にコットンを栽培し、今後も産業の活性化を目指していきます。

とき	主な活動内容
2023. 4～	既存農園 耕し、新農園土地確保
2023. 5～	農園 耕し、種まき、農園水源確保
2023. 5～	葉物野菜 収穫、朝市開催
2023. 6～	野菜無人販売 開始
2023. 7～	夏野菜 収穫、朝市開催、さつまいも苗植え
2023. 8～	夏野菜 収穫、朝市開催、さといも種芋植え
2023. 10. 5	福岡県よりグリーンコープ視察研修 受け入れ
2023. 10. 20	イベント「さつまいも&さといも堀り」
2023. 10. 27	イベント「コットン収穫」
2023. 11. 10	宮城県女川町「女川浜ばっばの会」交流会 実施
2023. 11.23、24	イベント「朝市」
2023. 12～	コットン収穫
2023. 1～2	コットンブーケ作成



購入した草刈り機



水源確保のためのエンジンポンプ



作成した野菜棚

一心の復興に向けた支援① 社会参加機会創出の支援—

関係的困窮を生まないために



写真（左）みんな農園が交流の拠点に
（中）日頃あまり外出機会のない方も参加
（右）にぎわう朝市

“きょういく”と“きょうよう”

漁師町の特徴である「自立心」は高齢化が進む当地域においては、時に孤立を生む可能性が少なくありません。自助や共助が求められる現状の一方で、自助・共助を可能にする社会資源が充実しているとは言い難い現状にあります。当法人では民間団体らしい柔軟で多様な方法で、自助・共助を可能にする仕組みづくりを実施しています。

ここに集まる方々は誰一人として取り残されることや、「お客様」となることはなく、誰しにも役割を見出します。そして一度でも挨拶を交わせば皆がお友だちとなり、それぞれの持つ役割で責任を果たすことで高齢者の社会性を取り戻す機能も担っています。

また、当事業は男性の参加者が多くみられるのが特徴です。日頃の農作業だけではなく、朝市開催時にも地域の方への声かけによる周知や、接客などを率先して行う姿も見られました。

「今日、用がある」「今日、行くところがある」、それが高齢者に必要な“きょういく”と“きょうよう”です。

実施回数ならびに参加者延べ人数

内容	実施回数・人数
事業における交流数	109回・のべ651人
朝市開催	9回・127人
朝市以外のイベント回数	3回・41人
参加したひとり親世帯数と子どもの人数	21世帯・38人
町外受け入れ	24人

活動と参加人数 詳細

とき	内容	参加者数	
		男性	女性
4/3	耕し、草取り	2	1
4/4	耕し、草取り	1	2
4/7	耕し、草取り	1	1
4/10	苗植え、草取り	3	2
4/27	苗植え、草取り	2	1
5 日間	4 月 交流人数 計 16 人	9 人	7 人
5/5	苗植え、草取り	1	1
5/7	苗植え、草取り	3	4
5/9	収穫、朝市開催	1	18
5/10	収穫、草取り	4	3
5/11	収穫、草取り	0	2
5/12	収穫、	5	3
5/13	剪定、種まき	3	1
5/14	草取り、収穫、朝市開催	2	20
5/16	草取り	5	2
5/19	耕し	2	1
5/23	耕し、水源確保作業	15	1
11 日間	5 月 交流人数 計 97 人	41 人	56 人
6/1	苗植え、草取り	2	3
6/5	苗植え、草取り	4	2
6/6	DIY 作業	0	2
6/8	草刈り	1	0
6/9	草刈り	2	3
6/12	剪定	0	2
6/13	剪定	0	2
6/15	種まき、草取り	2	0
6/16	種まき、草取り	4	2
6/19	草取り	2	0
6/20	草取り	1	1
6/21	収穫、朝市	2	18
6/26	収穫、耕し	2	0
6/28	収穫、朝市	1	23
15 日間	6 月 交流人数 計 81 人	23 人	58 人

とき	内容	参加者数	
		男性	女性
7/3	草刈り	1	0
7/4	草刈り	1	0
7/5	苗植え、耕し	3	5
7/6	苗植え、耕し	2	3
7/7	草取り	3	6
7/10	草取り	3	6
7/14	苗植え	2	1
7/18	剪定	0	3
7/19	剪定	2	3
7/21	草取り、耕し	2	1
7/24	草取り、耕し	2	4
7/28	草刈り	1	0
7/31	耕し	2	4
13 日間	7 月 交流人数 計 60 人	24 人	36 人
8/1	収穫、苗植え	2	3
8/2	草刈り	3	5
8/3	草取り、耕し	3	2
8/7	苗植え	3	4
8/8	収穫、朝市開催	1	15
8/9	収穫、朝市開催	1	11
8/10	草刈り	2	0
8/13-16	お盆中の水やり等	8	11
8/17	収穫、朝市開催	4	15
8/18	農園片づけ、草刈り	3	1
8/21	草刈り	2	0
8/25	種まき	4	3
8/28	種まき	3	3
8/29	苗植え	3	6
8/30	草取り	3	3
8/31	草取り	3	6
19 日間	8 月 交流人数 計 136 人	48 人	88 人

とき	内容	参加者数	
		男性	女性
9/1	草刈り	1	0
9/4	草刈り	1	0
9/5	剪定、草取り	3	3
9/6	剪定、草取り	3	2
9/7	剪定、草取り	3	3
9/8	農園片づけ	0	0
9/11	草取り、耕し	2	0
9/12	農園片づけ	0	0
9/20	草取り	1	5
9/25	草取り	0	2
9/26	草取り、耕し	3	6
9/29	農園片づけ	1	1
12 日間	9 月 交流人数 計 40 人	18 人	22 人
10/4	収穫	0	5
10/5	福岡県よりグリーンコープ視察研修受け入れ	8	13
10/6	収穫	0	1
10/11	収穫	1	0
10/16	収穫	1	2
10/17	収穫	0	3
10/20	イベント「さつまいも & さといも堀り」	1	9
10/27	イベント「コットン収穫」	2	5
10/30	収穫	1	1
10/31	収穫	1	3
10 日間	10 月 交流人数 計 57 人	15 人	42 人
11/2	収穫	0	0
11/6	収穫	3	4
11/7	収穫	0	1
11/8	収穫	2	5
11/10	宮城県女川町「女川 浜ばっパの会」交流会	1	23
11/13	収穫、コットン乾燥	0	2
11/15	収穫、コットン乾燥	1	1
11/16	収穫、コットン乾燥	1	1
11/20	収穫、コットン乾燥	2	2
11/23	朝市開催	1	10
11/24	朝市開催	2	15

とき	内容	参加者数	
		男性	女性
11/30		0	0
12 日間	11 月 交流会 計 84 名	20 人	64 人
12/1	コットン乾燥	0	1
12/6	農園片づけ	1	0
12/7	農園片づけ	1	0
12/18	農園片づけ	0	0
12/22	農園片づけ	3	4
12/27	農園片づけ	3	5
12/28	コットンブーケ作成	2	2
7 日間	12 月 交流人数 計 22 人	10	12
1/17	コットンブーケ作成	0	2
1/18	コットンブーケ作成	1	4
1/25	コットンブーケ作成	0	2
1/29	コットンブーケ作成	2	3
1/30	コットンブーケ作成	1	5
5 日間	1 月 交流人数 計 20 人	4	16
2/3	コットンブーケ作成	1	1
2/5	コットンブーケ作成	0	2
2/13	農園片づけ	3	3
2/15	コットンブーケ作成	0	1
2/16	コットンブーケ作成	0	1
2/19	コットンブーケ作成	4	1
2/21	コットンブーケ作成	0	6
2/26	コットンブーケ作成	0	1
2/28	コットンブーケ作成	2	8
9 日間	2 月 交流人数 計 34 人	10 人	24 人
3/5	コットンブーケ作成	1	4
3/6	コットンブーケ作成	0	3
3/12	コットンブーケ作成	0	1
3/13	コットンブーケ作成	1	4
3/14	コットンブーケ作成	1	2
3/18	コットンブーケ作成・小屋解体	1	7
3/19	コットンブーケ作成・小屋解体	2	6
3/20	コットンブーケ作成	0	1
3/21	コットンブーケ作成・小屋解体	2	7

とき	内容	参加者数	
		男性	女性
3/22	コットンブーケ作成	0	8
3/25	コットンブーケ作成	0	4
3/26	コットンブーケ作成	0	8
3/27	コットンブーケ作成	0	4
3/28	コットンブーケ作成	0	5
14 日間	3 月 交流人数 計 34 人	8 人	64 人
132 日間	計 719 人 うち	男性 230 人	女性 489 人
	うち、町外参加者数	6 人	18 人
	そのほか 子どもの参加者数	20 人	18 人
	合計 757 人	250 人	507 人



—“あらがだ大家族”それが私たち—
活動をきっかけに新たなグループが発足しました



写真（左）「かしましすたーず」より主力メンバーの7名
（右）野花をつかったコットンブーケを作成

「かしましすたーず」とは

ブレスユの「みんな農園」に集うなかから有志の方々と、あらたなグループを発足しました。農園に集うみなさんは、

それぞれが役割を担い、互いに高め合いながらさまざまなことに挑戦しています。

そして、大切に育ててきたコットンを初めて手にし、「このコットンを新たな町の産業として活かす取り組みができないか？商品にして、自分たちの手しごとにできないか？」との思いで結成したのが「かしましすたーず」です。

手しごとを通じて共通の目標をもち、喜びを分かち合える仲間は、“あらがだ大家族、そのものです。そのやり甲斐や喜びが日々の活力となっています。また、自分たちが得意とするもので知恵を出し合い、協力し合い、商品化への一歩を踏み出しました。

災害を乗り越え、生まれ育った大好きな山田町で新たな産業のマンパワーとなることを目指し、まだまだ生涯現役！と言わんばかりのパワーです。



―復興に向けた支援② 生活再建の支援―

買い物困難者への移動販売 誘致



写真（左・中）移動販売に歓喜するみなさん
（右）2 台の車両で移動販売をする いわて生協

恒久的な支援サービスの提供

わたしたちは2020年10月より買い物支援を開始し、2023年4月以降は地域のボランティアさんのご協力のもと、買い物同行支援を実施してきました。

しかし、買い物ボランティアの高齢化や、買い物支援を求める声が増えたことにより、共助となる買い物支援の継続性を担保できないことが課題となっていました。

上記の理由から、町内スーパーや現在移動販売を実施している町内企業等に対し、以前より町内中央地域以外への移動販売の運行を打診してきましたが、なかなか運行までに至りませんでした。

およそ1年にわたる協議の末、東日本大震災以降に岩手県沿岸部にて移動販売車の運行を実施しているいわて生協さまが、山田町において移動販売の運行を実施してくださる運びとなりました。

10月26日、いよいよ移動販売車がやってきた田の浜地区では、およそ40名の買い物客が訪れ、現在もなお、たくさんの買い物客がお惣菜や手作りパンなどを求め、買い物に見えています。

今後、田の浜地区同様に買い物困難となっている主に高齢者世帯への買い物の機会が得られるよう、いわて生協さまと協議を重ね、町の人々に安心をお届けしたいと考えています。

買い物代行支援ならびに買い物同行支援の利用者数

※2023年2月20日

年度	代行支援利用者	延べ人数	同行支援利用者	延べ人数	合計
2020年度	53		11		64
2021年度	49		169		218
2022年度	21		78		99
2023年度	0		94		94
合計	123人		352人		475人

活動「当法人のシングルマザー支援について」

当法人では、地域のシングルマザーに対し、デジタルスキルを身につける研修の実施と、実践（実務）にともなうサポートを実施しております。

主に岩手県沿岸部のシングルマザーが「実践しながら」パソコンスキルやビジネススキルを習得できるプログラムであり、デジタルスキルの習得のみにとどまらず、行政でも把握しきれていない地域の現状把握（リサーチ・アセスメント）から、個人に対しての個別支援プランの策定、個人の目標の実現に向かい、よりパーソナルに寄り添い支援団体と企業の強みを最大限に活かした伴走支援を実施しています。

● 暮らしとスキル習得の伴走支援

デジタルスキル研修では、ホームページ作成をはじめデザイン、システム開発のプロ集団によるデジタル研修を実施します。一方で、希望者すべてが円滑に且つ容易に受講へと進めるわけではなく、まずは生活基盤を整え、課題を整理したのちに受講をする場合もあります。すべての受講希望者へ事前面談を行い個々の支援プランを作成し、受講に進むか、まずは生活課題の解消に着手するかを決定します。

● 確実な実践業務数を保証

現在、アウトソースされた Web 業務を実践しているシングルマザーは、出会いから最短1か月で実践し、現在収入を得ています。現在実践している業務を10～20名が実践できるだけの業務がすでに準備されています。

● 研修プログラム「ステップアップ180プログラム」の特徴

- ① 当事業は、地域の状況を鑑みて、基礎スキルを身につけていない方でも挑戦することが可能な6か月のプログラムであり、個人のレベルに見合った研修・実践を選択することができます。初級向け～上級向けまで、あらゆるデジタルスキルに合わせた業務を実践しながら、個人のペースでステップアップすることができます。同時に相談（出逢い）のハードルを下げ、仲間との出逢いから学び、研修修了後の業務継続までを一貫して行います。
- ② 一方で、「**シングルマザー×高齢者**」という逆説的な相互扶助で生まれる重要な相乗効果も望めます。社会的孤立」と「経済的困窮」というシングルマザーと共通の課題をもつ地域の高齢者の「役割の取り戻し」として、**シングルマザーが学ぶ時間に“地域の高齢者が子守り役”を担い活躍します**。社会的弱者と呼ばれる「高齢者とシングルマザー」が手をつなぐことにより互いの潜在能力を高め、相互多重的な支援関係を構築することができます。

上記のように、高齢者とシングルマザーが関わることで生まれる相乗効果に期待し、心の復興補助事業においても同様に高齢者とシングルマザーの関係性づくりのための取組みを行いました。

課題と展望

東日本大震災当初、山田町のみなさんは町の復興と自宅再建、そして応急仮設住宅における新たなコミュニティづくりに懸命になり、またその機会こそがエネルギーの源になっていたように感じられました。一方で、震災から13年を迎えた現在において、人びとの活力になる機会は極めて減少し、気落ちしている方も少なくありません。町の復興は、防潮堤や住宅などのハード面の復旧のみに尽きず、町のみなさんの気持ちが震災以前よりも前向きになってこそ、復興の達成とも言えるのだと思います。

しかし、まだまだ長い時間がかかることが想定され、震災の風化とともに置き去りになることのないよう、当法人では、単発的かつ一時的な交流を目的とせず、孤立等の根本的な課題解消に向け、主として「日常で関わりあえる機会と関係性」を創出するとともに、当法人が実施する「みんな農園」や「シングルマザーの学び場」がコミュニティの拠点となり、相互多様な支援を可能にする役割を担います。

高齢者の孤立やシングルマザーの貧困課題を自己責任とせず、社会全体の仕組みにおける課題であると認識し、様々な分野の人々が関わり協力しあうことは地域課題解消への糸口となります。

来期の取り組み

2024年度も引き続き、シングルマザー×高齢者を主とした交流機会の創出と仕事づくりを実施します。双方の交流により被災者の心身のケアとなり、埋もれている町の潜在的人財（マンパワー）を発掘し、山田町のみなさんの潜在的な能力を開発し、地域の活性化を促進する取組を今後も展開していきます。また、ひとり親家庭や高齢者へのアプローチにとどまらず、町の貴重なマンパワーである両者を支えたいと日頃から感じている有志の方々の掘り起こしを行い、地域を地域で支えられるファミリー・サポートセンター事業をモデルとしたサークル活動を実施していきます。

現在計画しているサークル活動としては、ひとり親家庭の子ども等を対象とした親子向けイベントの開催です。例えば、夏休み中に火起こしや海水浴、スイカ割り、釣りなど、母子だけでは困難な体験をサークル活動で実施し、絵日記に描き記せるような子どもたちの経験や知識を醸成したいと考えています。同時に、さまざまな分野、年齢の方々と接する機会を持つことで、子どもたちの視野が広がり、将来のキャリア選択の際にも大きな影響を与えていると考えています。

今後の山田町の未来のためにも、長く住み続けることができる町づくりに尽力していきます。